

# まちの日記帳



## 漁港をきれいに

6/22

美国漁港のプレジャーボート利用者で構成する美国漁港利用協議会（八戸良一会長）は、同港の清掃活動を行いました。漁港清掃は例年春と秋の年2回実施しているもので、この日は同協議会の会員40人が参加し行われました。

参加者は、港内の散乱物や道路沿いに堆積した土砂、海上の浮遊する空き缶やペットボトルなどを拾い集め、さまざまに混じり合ったごみを分別しながら約2時間清掃活動に汗を流しました。



## 思いやりの心を育て

6/24

平成20年度「人権の花運動」の実施校の一つとして入舸小学校（藤井直樹校長、児童7人）が選ばれ、同校で人権の花贈呈式が行われました。

この運動は、花の育成とともに命の大切さや思いやりの心を身につけてもらうことを目的に実施しているもので、この日は、当町の人権擁護委員である川井順應さんと成田康正さんのほか、札幌法務局小樽支局の小林一延支局長補佐が来校しました。

贈られたのはマリーゴールドやペチュニアなどの花苗240本で、児童らはプランター30台に植栽を行いました。



## ちくわが楽器に

6/26

さまざまな文化芸術などに触れ、児童の豊かな感性を育むことを目的に毎年行われている小学校芸術鑑賞会（町教委主催）が町総合文化センターで行われました。

町内の小学生など約150人が訪れ、今年は札幌市の「河辺バンド」コンサートが行われました。

縦笛のケーナを中心に民族音楽、ポップスや映画音楽アニメなど幅広い種類で児童にも親しみのある曲の演奏のほか、ちくわや空気入れなど生活用品を笛にするコーナーでは、子どもたちも感動、出演者の音楽やトークで会場は盛り上がりを見せていました。



## げんきの森づくりに汗流す

6/27

第2回目となる森・海HUGくみたい（会長 角田拓也東しゃこたん漁協積丹支所青年部長）の活動が余別町サクラマスサンクチュアリーセンター横のげんきの森で行われました。

余別地区の町内会、駐在所、日赤奉仕団や漁協青年部・女性部など17人が参加したこの日は、平成18年に植樹したエゾヤマザクラやシラカバなどの幼木周辺や遊歩道の草刈りを実施しました。

参加者は、げんきの森で豊かな海を願いながら草刈機や鎌を片手に約2時間、汗を流しました。



## ふるさと美国を思い

7/7

美国町出身で画家の小林良男さん（千葉県在住）から美国中学校に油絵絵画が寄贈されました。

全校朝会にあわせ絵画贈呈式が行われ、小林さんは「気持ちの支えであるふるさとの美国を思い描いた絵が、学校に飾ってもらえるのはとてもうれしい。」と絵画と同じ絵柄がプリントされた絵はがき100枚もあわせて寄贈しました。

生徒代表は「とても素晴らしい絵をいただいて感謝しています。大切に保存し後輩に受け継いでいきます。」と謝辞を述べました。

寄贈された絵画は、「宝島遠望」F100号で、同校の生徒玄関に飾られています。



## 美しい海を守れ

7/13

船上から積丹半島の海を眺めるとともに、漁業者等と海づくりを語り合う「美しい海づくりフォーラム」が町総合文化センターで行われました。

これは、漁業関係者、ダイバー、東海大学などで組織する美国・美しい海づくり協議会（会長 神哲治東しゃこたん漁協副組合長）が主催した漁業・自然体験プログラムで、町内外から約60人が参加しました。

午前中は、漁船に分乗して沖合からの景色を眺めたほか、午後からは、神会長による「美国の漁場、今・昔」や大学教授による「磯焼けの現状と対策」などの講演や「美しい海づくりへのチャレンジ」と題した討論に参加者は耳を傾けていました。

